

2023年2月24日

厚生労働記者会（電話：03-3595-2570）（FAX：03-3503-4710）

報道関係者 各位

国際女性デー（3月8日）特別会見

日本人女性の命と健康をがんから守っていくために 子宮頸がんワクチン問題に残された課題を考える

守れる命を守る会

代表 石渡 勇

前略 日頃から皆さまにはお世話になっております。

守れる命を守る会は、国際連合が定める3月8日（金）の国際女性デー（International Women's Day）に際し、子宮頸がんを予防するHPVワクチンの接種率を上げていくためのレクチャーと呼びかけの会見を行います。

子宮頸がんはワクチンと検診で患者をゼロにすることができる唯一のがんです。日本では毎年、新たに約1万人が子宮頸がんと診断され、約3000人の女性が死亡しています。罹患のピークは20代後半から40歳代前半と子どもを産み育てる年代に合致し、女性の子どもたちの命と人生にも大きな影響を及ぼしています。

守れる命を守る会は、2022年4月に子宮頸がんを予防するHPVワクチンの積極的接種勧奨が再開し、接種の機会を逃した人へのキャッチアップ接種が始まったことを改めて歓迎するとともに、勧奨再開とキャッチアップ接種の実現だけでは終わらない課題と実際の接種に関する重要ポイントについて、当事者および関係者向けに解説します。会見には、子宮頸がんワクチン関連の啓発活動を行う女子学生も参加し、女性医師たちと共に作成した、啓発のための動画もご紹介する予定です。

記者の皆さまにおかれましてはご多用中ですが、ご参集賜りますようお願い申し上げます。 早々

◆ 記者会見 ◆

日時：2023年3月8日（水） 14時00分 ～ 15時00分

場所：厚生労働記者会（厚生労働省9F）

参加者：石渡 勇（守れる命を守る会代表、日本産婦人科医会会長）

細部 千晴（小児科医・細部小児科クリニック院長）

村中 璃子（医師・ジャーナリスト・京都大学非常勤講師）

子宮頸がんワクチンの啓発活動を行う女子大学生：国際基督教大学（川上詩子・久保田瑠璃子）、HPVワクチン for me（江連千佳）、imI-イムアイ（コモモ）、若者にHPVワクチンについて広く発信する会Vcan、渡邊すみれ、ほか

動画参加：種部 恭子（産婦人科医・女性クリニック We! TOYAMA 院長）

高橋 幸子（産婦人科医・埼玉医科大学助教）

久保田 恵巳（小児科医・くぼたこどもクリニック院長）

「守れる命を守る会」は科学的な言論活動を支援する団体です。医学・科学の専門家、ジャーナリスト、法律家等との交流及び協力を行い、科学的な言論活動に対する誹謗、中傷、訴訟等を受けた者に対する人的物的支援を行います。医学やメディアに限らず、幅広い分野の方々からの多数のご賛同いただいております。

【連絡先】 k.yoshikawa1029@gmail.com 090-3338-3653（吉川）